

## 合同企画シンポジウム一覧

1SAa	6月24日（月）9:00-11:30（予定）	講演言語 英語
究極のイメージング技術で広がる細胞生物学と蛋白質科学		
オーガナイザー：中野 明彦（理研）、岡田 康志（東京大 / 理研）		
講演者：中野 明彦（理研）、岡田 康志（東京大 / 理研）、Aubrey Weigel（HHMI）、胡桃坂 仁志（東京大）		
細胞生物学と蛋白質科学が向かう先の一つの究極に、生きた細胞内でタンパク質がはたらく様子を1分子レベル、超高分解能で見たい、ということがある。今後、クライオ電顕と超解像光学顕微鏡技術がますます接近し、多くのブレークスルーを生み出していくことは必須である。本シンポジウムでは、両学会の境界領域での最先端イメージングに関わるトピックスを取り上げ、イメージング技術の近未来像について議論したい。		
2SAp	6月25日（火）16:30-19:00（予定）	講演言語 英語
細胞内の蛋白質を見るクライオ電子顕微鏡		
オーガナイザー：吉川 雅英（東京大）、重松 秀樹（理研）		
講演者：吉川 雅英（東京大）、福田 善之（東京大）、宮崎 直幸（大阪大）、杉田 征彦（大阪大）		
蛋白質やその複合体の構造解析手法として、近年、クライオ電子顕微鏡が注目を集めている。技術革新を経てX線結晶構造解析に迫る高分解能を実現する一方、結晶化を必要としないこと、蛍光ラベルを必要としないことから細胞内の構造を直接観察する手法としても発展を遂げている。今回は国内で活躍されるクライオ電顕研究者の方々に高分解能単粒子解析、クライオトモグラフィーの最新の進展について講演をお願いしている。		
3SAa	6月26日（水）8:45-11:15（予定）	講演言語 英語
蛋白質科学の新常識：ナノスケールから細胞まで		
オーガナイザー：田口 英樹（東工大）、稲葉 謙次（東北大）		
講演者：田口 英樹（東工大）、稲葉 謙次（東北大）、田中 啓二（都医総研）、濡木 理（東京大）、稲田 利文（東北大）、安藤 敏夫（金沢大）		
ここ数年の間に従来の蛋白質像が大きく変わってきた。立体構造決定、フォールディングなどの「古典的」な研究の深化に加えて、細胞内の環境と現象を見据えた蛋白質科学が様々なレベルで広がっている。本シンポジウムでは、従来の蛋白質科学の枠組みを超えたフロンティアでの研究を紹介し、活発に議論することにより、細胞生物学をはじめとする生命科学における蛋白質科学の役割について理解を深めたい。		
3SAp	6月26日（水）13:50-16:20（予定）	講演言語 英語
What are the New Trends? – 構造生物学・細胞生物学が拓くWntシグナル研究の新潮流 –		
オーガナイザー：西田 満（神戸大）、柴田 直樹（兵庫県立大）		
講演者：高木 淳一（大阪大）、寺脇 慎一（群馬大）、柴田 直樹（兵庫県立大）、菊池 章（大阪大）、高田 慎治（基生研）、西田 満（神戸大）、石谷 太（群馬大）		
Wntシグナルの研究領域は、ショウジョウバエの遺伝学的解析に端を発し、1982年にはじめて哺乳類のWnt遺伝子 <i>int1</i> ( <i>Wnt1</i> ) が同定されたことで大きく発展した。そして現在、Wntの多彩な生理的・病理的役割が、細胞のコンテキストに依存した様々なWntシグナル経路とともに明らかになってきた。本シンポジウムでは、構造生物学、細胞生物学を基盤とした多角的アプローチによる最新のWntシグナル研究の成果を紹介し、Wnt研究の新潮流について議論する。		